

連作障害リスクの低減、成り疲れ軽減、病害に強い作物づくりに
納豆菌・アミノ酸・フルボ酸・海藻エキス・クエン酸をひとつにまとめました！

ネバルミックス®

根が張る！成り疲れせずに作物が粘る！連作障害に負けない粘り強いサステナブルな産地づくりを応援！



肥料登録番号 生第 107841 号



特長

- 腐植酸、アミノ酸、納豆菌を作期中において灌注することにより土壌改良を補完、連作障害リスクを軽減します。(灌注)
- 収穫開始時に、アミノ酸、クエン酸、海藻エキスを含む本剤を灌注することにより夏期高温時の根傷みの防止、根を充実させて「成り疲れ」リスクを軽減します。(灌注)
- 露地野菜では生育初期の葉面散布により根の活性を上げて初期生育を促進します。(葉面散布)
- アミノ酸により作物に病害に耐する抵抗性が誘導されることが知られています。納豆菌と併せて丈夫な作物づくりを応援します。(灌注・葉面散布)
- つるぼけ(樹の暴れ)リスクが少なくなるように、NPKを抑えた使いやすいレシピです。

使用方法

| 作物 | 使用目的 | 使用時期 | 希釈倍数 | 使用方法 | 回数 |
|-----------------------------------|--|-------------------------------|-----------|-------------------|-------------------|
| 施設栽培 トマト キュウリ メロン イチゴ | 根張り促進 草勢安定 成り疲れ防止 連作障害リスク軽減 (土壌改良効果) | トマト: 2段目着果~ | 200倍 | 灌水 | 2回 (7~10日間隔) |
| | | きゅうり: 1番果摘果後~ メロン・いちご: 着果前 | 400倍 | | |
| 露地野菜 | 初期生育促進 活着促進 耐病性向上(※2) | 定植直前 または定植直後 | 100~200倍 | 苗床灌注(※1) または灌注 | 1回 |
| | | 定植直前 | | 苗床灌注(※1) | |
| | | 定植後~生育初期 | 500~1000倍 | 葉面散布 | 2~3回 (7~10日間隔) |

※1) ペーパーポットを使用するてんさい、長ねぎ等の育苗、固化培土を使用するタマネギ等の育苗には使用できません。(納豆菌の影響)
※2) 耐病性向上を目的として苗床に使用する場合は、100倍をお勧めします。

製造元



ロイヤル インダストリーズ 株式会社

〒201-0003 東京都狛江市和泉本町1-15-19

TEL 03-3489-1408 FAX 03-3489-9308

《各成分の働き》

納豆菌（バチルス・ズブチリス）

- ◆納豆菌が生成するアミノ酸「 γ -PGA（ γ -グルタミン酸）」は土壌を団粒化し、保水性を向上させます。
- ◆各種病害等への拮抗作用により、病害に強い作物づくりが期待できます。
- ◆増殖力は極めて強く、他の菌の生活の場を奪うことと合わせ、納豆菌が産出する抗菌性活性リポペプチドと強力な界面活性を示す物質は有害菌を抑制することが知られています。
- ◆高温（100℃）、低温（氷点下）、強い紫外線などの環境下では、殻の固い孢子を形成、休眠状態となり耐え抜きます。

アミノ酸

- ◆作物に直接吸収されるほか、土壌微生物によって分解されたアミノ酸が緩効的に吸収されます。
- ◆アミノ酸のキレート効果により、土壌に固定されているリン酸が作物に吸収されやすくなります。
- ◆土壌中の微生物の餌となることで土壌微生物の働きが活発となることで、団粒構造が増す、養分の吸収がよくなる、地温の上昇等により、根の伸長が促進されます。

フルボ酸

- ◆フルボ酸は森林や土壌の中に存在する有機酸の一つで、発芽、発根、作物の生育促進を高める効果があります。
- ◆陰イオン(-)を持った腐植酸は陽イオン(+)を持ったK、Mg、Ca等肥料成分の溶脱を防ぎ、保肥力を向上させます。
- ◆土壌微生物の餌となることで土壌微生物を活性化し、土壌の団粒化を進めます。
- ◆土壌に固定化されているリン酸・鉄・銅・亜鉛などのミネラルと結合（キレート化）し、それらが植物へ吸収されるのを助ける働きがあります。

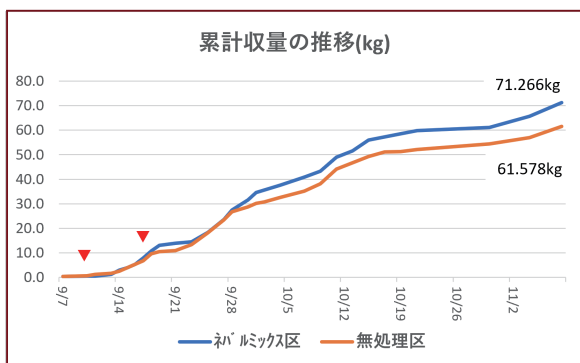
クエン酸

- ◆根から分泌される有機酸であるクエン酸は、根域の微生物層に大きな影響を与え、土壌中の栄養素を利用しやすくしたり、有害な金属イオンの溶脱を助けることで植物に有利な環境を作り、発根を促進します。

海藻エキス

- ◆南アフリカ産巨大海藻「エクロニア・マキシマ」から抽出した海藻エキスです。
- ◆アミノ酸、ミネラル、ビタミン、多糖類、植物ホルモンなど66種類の含有成分の複合作用により、作物の細胞分裂促進や肥大促進をさせて増収のお手伝いをします。
また、植物ホルモン（オーキシン、サイトカイン）の働きにより根量の増加、根張りが良くなり、肥料の吸収能力が高まります。
- ◆葉緑素が増え、光合成能力が向上、糖の蓄積が進み、増収が期待できます。

【2022年度 社内試験結果（トマト）】



試験概要

試験地：北海道（道南営業所試験ハウス）
品 種：桃太郎 75(接木2本仕立て)
区 制：試験区、無処理区各20本(5株×2反復)
定植日：2022年7月13日
処理日：7月13日 100倍液灌注(1L/株)
9月9日 200倍液灌注(2L/株)
9月16日 200倍液灌注(2L/株)
調 査：9月7日～11月8日

※収量は裂果等規格外品を含む

注意事項

- ◆たまねぎの育苗では培土が崩れて植え付けができなくなりますので、使用を避けて下さい。
- ◆てんさい、長ねぎ他、ペーパーポットでの育苗期に使用するとペーパーポットが剥がれなくなりますので使用を避けて下さい。
- ◆葉面散布においてほとんどの農薬、液肥と混用可能ですが、農薬自体に薬害が出やすい農薬、強アルカリ、強酸性の農薬や液肥との混用は避けてください。
- ◆ご使用前によく攪拌してください。
- ◆冬期保管においては結晶が析出、沈殿する場合がありますので、暖かいところで保管してください。